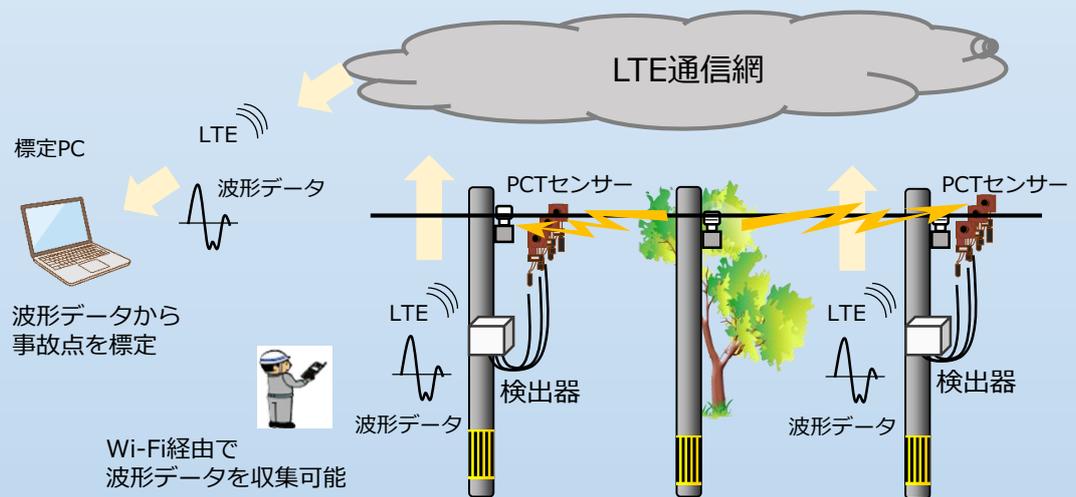


【個別技術紹介】 可搬型事故点標定システム

- 地絡事故検出時の波形データ解析により事故点を標定
- 持ち運び可能なため配電線路に自由に設置可能

特徴

- 6kV配電線路の地絡事故箇所の標定を可能とするために、配電線路の任意の箇所に設置する検出装置にて事故波形データを収集し、LTEデータ送信により、標定PCにて事故点を解析・標定するシステムです。
- 検出装置は、配電線路の電圧と電流を取得するPCTセンサーと、地絡事故の検出や波形データの記録とLTE通信を行う検出器から構成されます。
- 標定PCはLTE通信により検出装置からの波形データを収集し、事前に作成した配電線モデルと照らし合わせることで、事故点の標定を行います。
- LTE通信不感エリアでも設定器にて検出装置に記録されている波形データをWi-Fi通信により収集することで事故点の標定が可能となります。



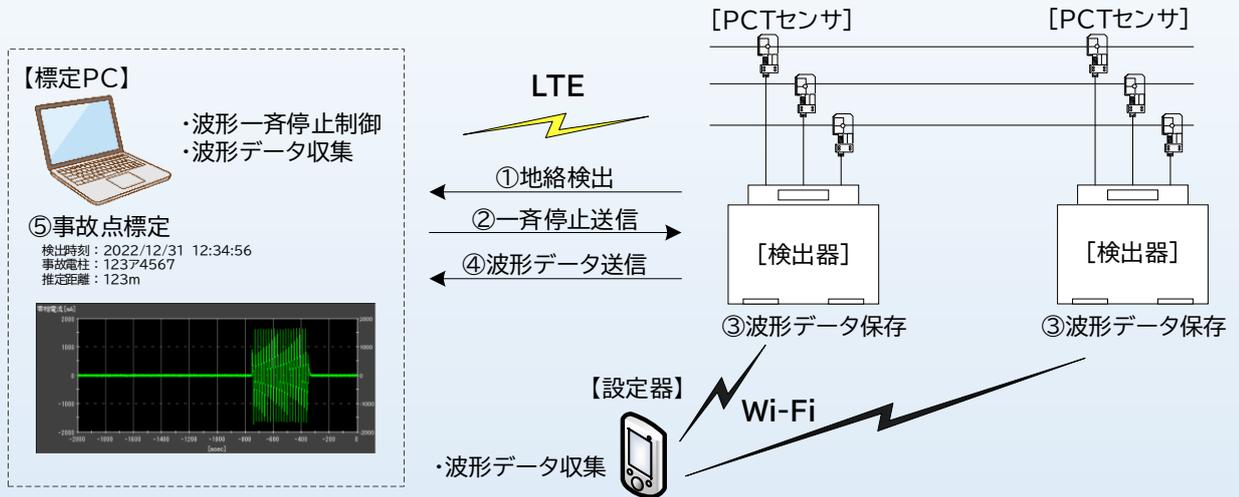
検出装置の仕様

項目	検出器	PCTセンサー（1相分）
定格電圧	AC100V	AC6900V
定格周波数	60Hz	60Hz
定格電流	—	600A
寸法	H:304mm×W:276mm×D:215mm	H:302mm×W:153mm×D:120mm
重量	6.0 k g	5.3 k g
外観		3本セット (写真は1相分)

50Hz地区でも使用可能な検出装置を開発予定です。



事故点標定までの動作概要

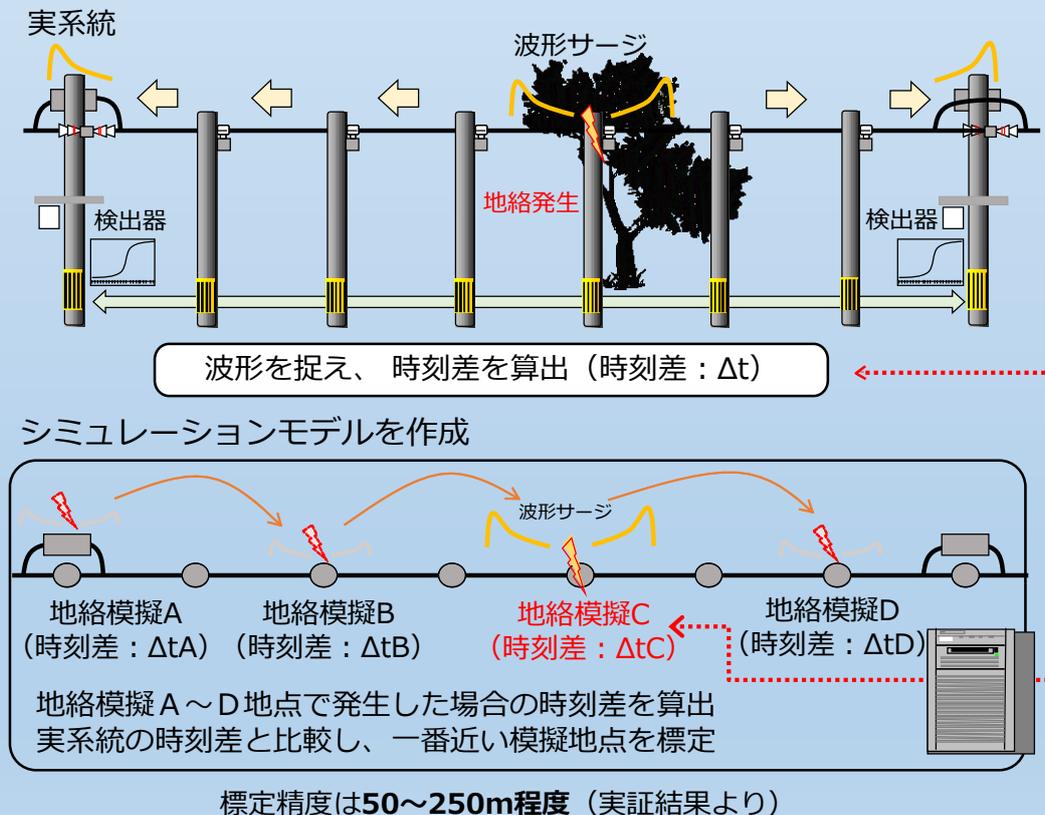


- ① 検出器は地絡検出情報を標準PCに通知します。
- ② 標準PCは各検出器に対して波形データの一時停止要求を送信します。
- ③ 一時停止要求を受信した検出器は、波形蓄積を停止し、波形データを装置内部に保存します。
- ④ 検出器は標準PCからの要求により、波形データを送信します。
- ⑤ 標準PCは各検出器から収集した波形データを解析し事故点を標定します。

事故点標定処理の概要

特許出願申請中

特開2023-134216,特開2023-146467,特開2023-134219



※ シミュレーションのモデル作成には、各電柱間の電線種/線径や線路長、柱上変圧器、お客様設備等の情報が必要となります。